

2011年度第1四半期決算説明電話会議 質疑応答(要旨)

- 2011年8月10日に実施したIR電話会議の質疑応答(要旨)を以下のとおりまとめました。補足説明と併せてご覧ください。

Q1:(損保事業の保険引受利益)

保険引受利益について、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保を比べると、三井住友海上は改善していないように見えますが、あいおいニッセイ同和損保は大幅に改善しており、2社で方向が分かれています。その要因をどのように分析しているのか教えてください。

A1:

2社の当四半期の保険引受利益の増減は、インカードロスの発生の状況によって左右されています。家計地震保険・自賠責保険を除いたインカードロスは、三井住友海上では72億円増加、あいおいニッセイ同和損保は87億円減少となっています。その主な要因は、両社とも自動車保険のインカードロスであり、三井住友海上は69億円の増加、あいおいニッセイ同和損保は85億円減少となっています。

状況を申し上げますと、インカードロス(支払備金)に関わる処理方法が両社で異なります。三井住友海上は簡便法を使っており、自動車保険ではEI損害率の過年度実績を使って見積もり計算を行っています。一方あいおいニッセイ同和損保は、原則法(年度末決算と同様の方法)を採っており、足元の事故の発生状況をより反映することになります。

自動車保険の損害率は昨年春先から急激に上昇したため、三井住友海上の昨年度第1四半期決算では、上昇する前の低い損害率が適用されましたが、今年度第1四半期決算では昨年度の高い損害率が適用されたことにより、インカードロスが対前年同期で増加した形になっています。これが三井住友海上の保険引受利益が減少した要因のひとつです。

Q2:(拡張担保の支払いペースの見通し)

昨年度発生した東日本大震災に関連した企業向けの拡張担保の支払いが、第1四半期の段階ではまだほとんど進んでいません。これが第2四半期以降どこかのタイミングで支払いが進んで、異常危険準備金の取崩しが発生し、今年度の利益を押し上げてくると考えられます。どれぐらいのタイミングでこの拡張担保の支払いがある程度まとまって、損害率50%を超えてくるか、現時点での支払いのペースについてイメージがあれば教えてください。

A2:

拡張担保については、補足資料の東日本地震関連の保険金支払状況にありま

すように、家計地震保険に比べ支払いが進んでいません。契約者さまのご事情もあり、事故損害額の確定に時間がかかっており、この状況は、今後も若干続くのではないかと考えています。したがって、年間では種目によって損害率が50%を超えることを想定していますが、その時期について正確に見込むことができかねる状況です。

Q3:(三井住友海上の種目別インカードロス)

三井住友海上について、種目ごとのインカードロスを見ると、昨年度第1四半期との対比で火災とその他種目が増加しているかと思えます。増加の要因として、大口事故の影響等について教えてください。

A3:

三井住友海上において、火災保険のインカードロスは、対前年同期で約20億円増加しています。要因としては、自然災害や個別に発生した大口ロス、為替の影響などがあります。このうち、大口事故の影響で対前年同期で8億円増加しています。為替については、昨年度第1四半期はドルを始めとして円高傾向に進む動きが今年よりも大きく、それに比べ今年是为替の変動に伴うインカードロスの減少が少なめに出たため、対前年同期5億円のインカードロスの増加要因になっています。そのほかに、アード保険料が増加した結果、インカードロスが連動して増えています。

その他種目については、対前年同期で約13億円インカードロスが減少しています。火災保険と同様に為替の影響で10億円増加していますが、アード保険料が減少した影響でインカードロスが10億円減少、簡便法に使用した損害率が低下した影響でインカードロスが12億円減少していることが要因と考えられます。

Q4:(三井住友海上の自動車保険インカードロス)

- 三井住友海上の自動車保険について、インカードロスが対前年同期で増加している要因につき教えてください。
- 三井住友海上の自動車保険に関しては、第1四半期と第3四半期の決算では簡便法で行い、中間決算において支払備金の計算を行うと思えますが、現状のロスのトレンドが第2四半期も継続した場合は、支払備金の取崩しが発生する可能性もあるという理解で正しいでしょうか。

A4:

- 三井住友海上のインカードロスについては、簡便法を採っていますが、自動車保険に関しては、昨年度からの増収を反映してアード保険料が増加しており、それに損害率を掛けることによって、インカードロスが26億円増加しています。また、前年同期に使用した損害率と今回使用した損害率の差によってインカードロスが40億円弱増加しています。

- これは、足元の傾向よりも若干保守的に出ているという感触があります。今後、自動車保険のロスが落ちついていけば、中間決算等で備金の洗い替えをしたときに支払備金の取崩しが発生し、インカードロスに若干改善の傾向が出てくる可能性があります。

Q5:(あいおいニッセイ同和損保の自動車保険インカードロス・支払備金)

- あいおいニッセイ同和損保について、自動車保険の EI 損害率を計算すると約 62%になっていて、前期末の約 69%からかなり改善していますが、なんらかの一時的な要因で下がっているのか、それとも第 1 四半期の実勢をほぼ適切に反映していると見て良いのか、教えてください。
- あいおいニッセイ同和損保の自動車保険において、支払備金が約 40 億円減少しているようですが、これは、前期末に見積もった金額よりも発生動向が改善した結果と理解して大丈夫ですか。

A5:

- あいおいニッセイ同和損保のインカードロスについては、簡便法ではなく実績に基づく数値で計算していますので、足元の実勢を反映したものとご理解ください。なお、当四半期の自動車保険のインカードロスの改善について、これまで行ってきた施策の効果や 3 月以降の急激な事故受付件数の減少の影響など分析を進めている最中です。

Q6:(自動車保険の契約台数増減)

三井住友海上で自動車保険の契約台数が増加しているのに対し、あいおいニッセイ同和損保では契約台数が減少していますが、これをどのように分析しているのか教えてください。

A6:

全般的に新車販売台数の落ち込みが激しく、両社ともその影響を受けていますが、三井住友海上については昨年度から好調でありました住友生命との提携なども増収要素として寄与していることから、契約台数が前年を若干上回っているとご理解下さい。

【補足説明】

4月～6月の住友生命提携による自動車増収額(営業保険料ベース)は約4億円です。その他のチャネルでも、まんべんなく増収していることや、保険料改定後も高い継続率を維持していることも契約台数増加の要因になっています。

※個別マーケットに関する契約台数等詳細に踏み込んだ開示は控えさせていただきます。ご了承ください。

Q7:(家計地震保険関連のその他資産・その他負債)

グループ損保会社の2社ともにその他資産とその他負債が増えていますが、このうち家計地震保険にかかわる再保険貸と仮受金が両建てで増加している金額を教えてください。

A7:

三井住友海上での前期末から6月末時点で1,000億円強、あいおいニッセイ同和損保では1,000億円弱増えており、2社合計で約2,000億円増加しています。

Q8:(10月に予定している自動車保険の料率改定)

この10月に料率改定を予定していると思いますが、三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保、それぞれ特色のある損害率等々が出ている中で、それぞれどういった考え方で保険料改定を予定しているのか教えてください。

A8:

三井住友海上の10月の料率改定の特徴としては、記名被保険者年齢別料率区分の導入があります。今までの運転者年齢条件に加え、記名被保険者の年齢別に分けて主に事故率が上昇している高齢者層の料率の引き上げを行います。一方であいおいニッセイ同和については、被保険者年齢別区分の導入は、今回は行いません。昨年度合併した2社の商品を統合した関係もあり、今回は見送りをしています。

Q9:(海外事業の損害率)

海外事業について、直近の損害率を地域ごとに教えてください。

A9:

海外子会社のEI損害率を、地域別にお答えいたします。まず米国は65.7%、前期比で+0.6ポイント。欧州は73.8%、前期比で+0.7ポイント。アジアは55.1%、前期比+1.3ポイント。再保険子会社におきましては、ニュージーランド地震に関わる支払いの影響で72.9%と、前期比+33.9ポイント上がっています。海外トータルでは64.5%と前期比+4.0ポイントとなっています。

Q10:(7月の自動車保険の事故状況)

自動車保険について4—6月の事故の状況についてご説明がりましたが、その後、足元どのような事故受け状況になっているか、7月の状況について教えてください。

A10:

7月の自動車保険の事故の状況について、補足資料と同じ1日当たり事故件数の速報値を前年同月比で申し上げますと、三井住友海上では-2.1%、あいおいニッセイ同和では-1.5%となっています。ただし、あくまで速報ベースでありますので、確報ベースに置きかえるところで若干上ぶれするようなこともあり、前年比プラスマイナスゼロぐらいではないかと思っています。

Q11:(直近の自然災害によるロス)

7月に起きた水害などの自然災害について、ロスの状況について教えてください。

A11:

三井住友海上とあいおいニッセイ同和において、今の時点での事故受付状況からの推測では、それぞれ4億~5億円程度、合計で10億円もしくはそれ以下のロスと見込んでいます。

以上

本資料に記載されている内容は、当社が現在入手している情報や本資料の作成時点において行った予測等に基づいています。これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、さまざまな要因により実際の業績が本資料の記載内容と異なる結果になる可能性があることをご承知おきください。